

「研究テーマ」

「新聞から読み解く現代」—NIE利用による新聞を活用して—

兵庫県立伊丹高等学校 教諭 柘田 安史

(1) はじめに

○本校のNIE

3年8クラス320人の「総合的な学習の時間」の取り組みとしたが、全職員や事務職の方に対しても、職員朝礼での告知や「総合学習新聞」の発行によって、NIEの取り組みを知らせよう努力した。



○新聞の置き場所

小会議室・進路室前廊下

本校の小会議室前廊下は、生徒HR教室のある本館と、芸術教室や理科関係の教室のある北館を結ぶ2階にあり、進路室前でもあり毎日の生徒の生活動線となっている広い廊下である。新聞を置くための広い木製机と読み終えた新聞を収納するロッカーを設置し、また折りたたみ式の机を2メートル×3台を壁に取り付け、生徒の利便性を図った。



○整理の方法

・今年度は実践者が毎日6紙を置き場所に持っていった。1日6紙(朝日・毎日・読売・日経・産経・神戸)、5～8月の4ヶ月間。

だいたい1週間分の朝夕刊を大机とロッカーの上に並べ、それ以前のはロッカー内に収納し、必要に応じてすぐに取り出せるように1週間単位にまとめ、ロッカーの収納に順に保管した。定期的にクラスのHR委員に整頓させた。

・3年8クラスで取り組んだが、特にクラスごとのローテーションは行わず、生徒は各自で切り抜き、保存して発表の準備を進めた。新聞はHR教室に持っていてもよいが、切り取り後は必ず進路室前に返却するよう徹底した。

(2) 実践事例

○教科、領域

総合的な学習の時間（3年320人）

○研究テーマ

- ・新聞スクラップ
- ・進路学習
- ・プレゼンテーション（スピーチ）「新聞から読み解く現代」NIE利用による新聞を活用しての発表

○目標

- ①進路や入試に関わる、もしくは興味のあることに関しての、テーマを決め、テーマに沿った新聞記事をスクラップし、小論文作成や面接に活かす。
- ②他者の発表を見聞きし、様々なテーマに対する異なった視点を共有する。
- ③新聞を通して社会的事象に関心を持ち、自分と社会の関わりについて考える。

○学習計画

総合的な学習の時間、年間30時間の中で9月の4時間を今回の単元として設定し、最初の1時間はプレゼン原稿のまとめと練習、

続く3時間を発表の時間とした。

新聞スクラップは、新聞の無償配布が行われた5～8月の期間に、進路や入試に関わる、もしくは興味のあることに関しての、テーマを決め、テーマに即した新聞記事を月に2枚以上、4ヶ月で計8枚以上という無理のない設定とした。切り抜いた新聞記事は、ロッカー内にあるスクラップ用紙に張り、見出し、要約、意見・感想を記入し提出させた。

夏休み中に、2学期の授業での発表にむけて、2分以上3分以内（800字程度）のプレゼンテーション（スピーチ）の準備をさせた。

○授業の展開

〈第1週〉原稿の最終校正とプレゼンの練習
提出は次の2点

①新聞切り抜き8枚以上

②3分程度（800字程度）のスピーチ原稿

※ 必ず新聞記事を引用し、引用した部分がどこかわかるように原稿用紙に『 』をつける。（欄外に日時と新聞名を記入）ただし引用する部分が原稿の3分の1を超えないこと。
1クラスを3グループに分割した少人数でのプレゼンテーションとするため、新聞記事の写真でもあれば、配布するなどの工夫も加える。

〈第2・3・4週〉プレゼン

各クラスで、テーマや進路別の3班に分かれる。

実践者のクラスでは、大テーマを「国際・医療・教育」の3つの班に分け、班ごとに、進行係がリードし、スピーチと質疑応答を行った。（13人の班であれば、スピーチを行う5人と質疑を行う8人とに役割を決める。）

スピーチ1人 3分

感想、質問を用紙に記入（全員記入）2分
質疑応答5分（10人の班であれば、5人から質問とスピーチした本人の応答を行う。）

○指導の留意点

全体への最低提出枚数は、受験勉強にも考慮し無理のない枚数としたが、受験において面接や小論文のある医療看護系、教育系、就職・公務員等に関しては、ノートを準備させほぼ毎日スクラップと見出し、要約、意見を提出させた。

プレゼン用の原稿や写真などは、夏休み中に準備させた。

○評価

自分の進路等に関連した学問領域・研究テーマに沿って新聞記事を選びまとめる中で、記事についての自分なりの意見を持つことができたか。

自分の進路等に関連した学問領域・研究テーマについての理解が深まったか。

新聞スクラップを通して得た知識を、プレゼンテーションとしてまとめ、その後の小論文や面接に活用できたか。

○興味を持たせるための工夫

・「総合学習新聞」を発行し、コラムの6紙の読み比べや、一つの事件に対する各紙の取り上げ方の違い、新聞の構成や記事の書き方、見出しの付け方など、新聞を読む上で知っておくべきことをまとめた。



・1、2年の時からコラムや社説を継続的に読んだ。（1年時に60号、2年時に40号まで教師主導で発行した。）

・学校全体で、コラムの書き写しや漢字・意味調べなど、言語活動の基礎基本を新聞から学ぶ取り組みを行った。

・国語表現の授業選択者には、新聞の構成を学び新聞を作成させる取り組みを行い、その作品を掲示した。

○オリエンテーション

全体を集めてのオリエンテーションは行わなかった。

（3）実践前後の変化

○実践の感想

新聞スクラップ・プレゼンテーションの実施計画を5月に生徒に連絡したが、当初は大多数の生徒には苦痛以外のなにものでもなかった。受験勉強や部活動、文化祭が並行して実施される中、徐々に取り組みを進めていったが、医療看護系、教育系、就職・公務員への進学・就職を希望する生徒達の積極的な取り組みを間近にし、また新聞に実際に触れ、スクラップをためていき、最終的には前向き

に原稿作成、発表にと進んでいくことができた。

○実践者の感想

新聞をとっていない家庭が予想以上に増えている中、実際に紙の新聞を手に取り、6紙もの新聞を読み比べる機会が持てたのは、実践前に思っていた以上に良い効果を生徒にもたらすことができた。

何気なく読むのではなく、自分の進路との関わりの中で、記事を拾い集め、またテーマの共通した友人のプレゼンを聴くことによって、新しい考え方や視点に出会い、深く対象と対話し社会とのつながりを実感する時間になったように思う。

○生徒の感想

・ニュースは今までインターネットで見っていたので、新聞を読むのが最初はかなりめんどくさくて嫌でしたが、実際に新聞を読み出すとネットで気付かない細かいところやコラム的なことがおもしろくて良いところだと気付くことができた。

- ・新聞の切り抜きは主に、原発関連の記事を切り抜いていたので、この総合学習の時間がなければ、深く考えることもなかったと思う。
- ・自分で調べたり、新聞を切り抜いたりして、それをみんなの前で発表するのは楽しかった。
- ・新聞を毎日読んでいたが、一つのテーマで新聞を追いかけ、内容を考察しまとめ発表する機会があって良かった。
- ・いろいろな紙面を読めて良かった。同じ事件に対しても新聞が変わると意見がかなり変わることに気づけた。

・同じ進路や分野を考えている人の意見や考えを聞くことができ、情報交換にもなったので良かった。

・普段読むことのない経済新聞もあって、今まで興味のなかった記事を読もうと思うようになったので良かった。

・夏休みの学習時間をこの作業に奪われてしまった。

○今後の課題

1年目ということもあり、計画段階から実際に新聞が毎日届き、積み上がっていく中で計画不足の点が多かった。特に生徒に主体的に取り組ませるところまでいかず、日々の新聞の整理一つとっても、教師が行うのは簡単ではあるが、まず生徒が新聞を手に取り、所定の場所に置き整理をする、その中で新聞を間近に感じ、自然と興味を持たせる、何気なく読んでしまう環境作りをすべきであり、来年以降の課題となった。

また総合学習やHRでの取り組みに関しても、一部の教員の指導として偏る傾向が強くと、学校全体の取り組みとして意識を共有化するまでには至らなかった点も課題として残った。